

こもれび

題字 北村正平市長



石川県白山市先進地視察研修にて

第20号

- ・静岡県スポーツ推進委員連絡協議会
表彰式・講演会(7/27)
- ・先進地視察研修in白山市(9/21～22)
- ・室内ペタンク大会(10/6)
ワンバウンドふらば～る交流大会(11/17)
- ・スポーツ&健康フェスタinふじえだ2019(12/7)

藤の里



ふじえだ

編集・発行
藤枝市スポーツ推進委員会
広報部

2020年1月

静岡県スポーツ推進委員連絡協議会 表彰式・講演会

令和元年7月27日(土)
静岡市民文化会館にて

長年地域スポーツの振興に尽力されたスポーツ推進委員の方々の表彰及び講演会が、田辺静岡市長同席の元、盛大に執り行われ、藤枝市から18名が参加しました。

また、我々の仲間から、10年以上勤務された下記の3名の方が表彰されました。

おめでとうございます

石野 秀光さん 大橋 昌行さん 前田 明男さん



静岡県スポーツ推進委員連絡協議会に参加して

令和元年七月二七日に予定された協議会は台風六号の接近があり、開催が危惧されましたが無事開催されました。

この協議会の主な目的の一つは、永年地域スポーツ振興に尽力されたスポーツ推進委員の表彰でした。個人団体九二名が表彰されました。藤枝市では、石野秀光様、大橋昌行様、前田明男様の三名でした。地域交流、スポーツ推進による健康増進のなどのために、市内で行われるスポーツ教室などでは、笑顔で地域の人たちと接しられ、楽しい活動を目指し、技術、ルールの伝達に積極的に取り組んでいました。市内のスポーツ大会では、運営委員の一員として審判や準備などを黙々とこなしている姿を見ることができました。

さて第二の目的は、市町におけるスポーツ振興に資する内容の講演会でした。講演者は、スポーツジャーナリストの佐塚元章様でした。

彼の生い立ちから始まり、NHKアナウンサーになるまでの経過と、なってからの活躍を通してスポーツにかかわる人生について、環境と時期が大切だという内容でした。環境では、小さい頃はすぐ近くに草薙グラウンドがあり、マウンドに登ってピッチングをしたり、トラックを走ったり、部活でも運動部に入り、スポーツに親しんだことでした。さらにアナウンサーになろうとしたきっかけは一九六四年オリンピック開催の年に中学二年生で、選手の活躍、実況中継のアナウンスで感銘をしたとのことでした。

スポーツ推進委員への願いは、論語の「吾十有五而志于學」にあるように子供たちは十五歳には自分の進路を考え、良きにつけ、悪きにつけ学びだすので、それまでの間にいろいろな経験をさせて欲しい、特にスポーツでは色々な種目を経験させて選択の幅を広げさせて欲しいでした。さらに子供たちには、経験は浅いが人格者として接して、子供たちの能力を適切なアドバイスで伸ばして欲しいでした。

人は褒められるとそれによりさらに力強く前進するので褒めてほしい。だが、褒めるという言葉は上から目線なのでトラブルを起こすかもしれません。具体的には、「えらいぞ」など周りで聞いている子供は「そんなことは私もできる」などと妬む場合もあります。一人の人の能力は伸ばすかもしれませんが、多くの人々の能力を伸ばすには不適切です。ですから、その時の感動した気持ちなどを伝えて、「素晴らしい演技で感動した」、「とてもきれいな演技だった」とか。そうすることによってこの人はこのようなことで感動するんだ、私の演技を自分のことのように喜んでくれるんだということが相手に伝わり、次へのステップのエネルギーになります。そこには妬みなどは生じません。

今年は、プレオリンピック、来年はオリンピック本番、この時期を逃さないで、スポーツの楽しさ、素晴らしさを指導しながら、体験させ、言葉で伝えてほしいとのことでした。

秋山 馨

先進地視察研修in白山市

令和元年9月21日(土)、22日(土)

恒例の先進地視察研修、今年は石川県白山市へ総勢23名で情報交換、ニュースポーツの体験等々、有意義な時間を過ごしてきました。

今回、9月21日、22日の2日間、白山市での先進地視察研修に参加しました。

1日目は白山市スポーツ推進委員と、グランドホテル白山にて交流会で意見交換を行いました。白山市のスポーツ推進委員は56名で、女子が24名と半数近く女子が活躍しています。

2日目は白山市美川体育館にて実技研修会を行い、藤枝市から「ワンバウンドふらば〜る」を紹介。白山市もふらば〜るをルールは少し異なるがニュースポーツに取り入れておりました。今回は藤枝ルールで実施し、大好評で汗だく。白山市からは「スライディングペタンク」を紹介されました。地元考案、パックを床にすべらせ目標物に近づける、道具は自作。ルール説明をされ、混合チームに分かれ楽しいゲームに夢中になってしまいました。研修に参加し、とても充実し、興味深い内容の研修となりました。

村松 敏雄



今回の視察は白山市です。3回目の参加になります。実技研修は、藤枝市が「ワンバウンドふらば～るバレー」、白山市が「スライディングペタンク」の紹介です。前日の懇親会のお陰で和やかな雰囲気での交流することができました。ワンバウンドは、白山市も取組んでおりましたが、ルールは多少違いました。前回の諏訪市も同様でした。それぞれが色々と考えて工夫しているのは面白いと思いました。紹介いただいたスライディングペタンクは、懇親会で同席した学校の先生が引きこもりの生徒のコミュニケーションツールとして考えて手作りで始めたと聞き、ニュースポーツのあり方を改めて考えさせられました。

台風の接近で心配していた天候も帰路まで何とか持ち、スポーツ推進委員の方々との親睦を深めることが出来ました。長時間のバス乗車お疲れ様でした。大変お世話になりました。 **河村 敏之**



第18回藤枝市室内ペタンク大会

令和元年10月6日(日)

志太ペタンク大会への出場を目指して、27チームが参加して行われました。



第1回藤枝市ワンバウンド ふらば～る交流大会

令和元年11月17日(日)

初めての交流大会。16チームの参加により、白熱した試合が展開されました。



スポーツ&健康フェスタ inふじえだ2019

令和元年12月7日(土)

今年で13回目を迎えるスポーツ&健康フェスタinふじえだが静岡県武道館にて約2,700名の方の参加により、盛大に執り行われました。



スポーツ&健康フェスタに参加して

今年度よりスポーツ推進委員になり、初めてのスポーツ&健康フェスタへの参加でした。早朝より準備が始まり、開会式の時間には数多くの来場者で賑わい、午後の終了時まで沢山の来場者が絶えず、藤枝市民のスポーツと健康への意識の高さを実感いたしました。今の時代、高齢化が進みどのようにして健康寿命を延ばしていくかが重要な課題となっています。健康に過ごすためには運動は必要です。では、どのようなスポーツを行うのが有効なのか？「激しすぎるスポーツは、無理」これがやっぱり一番に来ることと思います。こんな気持ちで足を運んでくれた方には最適なイベントではないのかと感じます。

今回、スポーツ&健康フェスタにお越しいただき、いろいろなスポーツを体験し覚えていただいた事を機会に、より積極的に参加していただき競技者として活躍していただければ幸いです。

平松 孝之

スポーツ&健康フェスタinふじえだ2019

12月7日、静岡県武道館で開催されたスポーツ&健康フェスタを振り返ってみました。当日は、曇り空の冷える中スポーツ推進委員の方々が、早朝から会場づくりを行った結果、いいスタートができました。来場者の年齢層は、幼児を伴った若い家族や高齢者が目立ちましたが、20代の若い人をあまり見かけなかったのは、健康に対する意識の差でしょうか？最近、メガネをかけた低年齢の子供が多いのが気になりました。会場には、様々なスポーツを体験できるコーナーが、設置され人気の体験コーナー、ブースでは長い行列ができるほど参加者の笑顔いっぱいのイベントでした。私の担当したフライングディスクでは、十枚の円盤で九枚の数字を射抜くコーナーでしたが、残念ながらパーフェクトはできませんでした。また、UC藤枝一輪車パフォーマンスは素晴らしかったです。小中学生の平衡感覚と運動神経の良さに改めて感心しました。我々高齢者予備軍としては、すり足や低い段差の躓き転倒で怪我をしないこと、普段から適度な軽い運動を心がけ、塩分やアルコールを控えて、精神的健康も維持し、孤独な高齢者にならぬ様にと考えた次第です。

竹山 正美



スポーツ&健康フェスタinふじえだ2019

従事者として、障がい者スポーツ体験コーナーを担当させていただきました。このコーナーは、来年の東京パラリンピックの種目であるボッチャや、車椅子体験、フライングディスクなど、子供から大人まで楽しめる内容です。普段、体験できないものばかりで、多くの来場者が競技を楽しんでいる光景が見られました。ボッチャは、親子、友達や、会場で初めて会った人と競技を楽しんでいました。フリスビーを投げて的を倒すフライングディスクは、特に大人に大人気で、何度もチャレンジする子供達や、遊びを忘れ真剣に取り組む大人の方々もいらっしゃいました。また、車椅子体験の多くは小学生で、非常に興味を持ちながら操作する姿が印象的でした。私は主に、受付でスタンプを押していましたが、体験を終え、スタンプを貰いに来る子供達の満足そうな顔や笑顔を見ることができ、多くの元気をいただきました。有り難うございました。

金城 成久



○編集後記

今年もいろいろありました。

30年続いた平成の時代も終わり、令和という新しい時代が幕を開けました。

平成がスタートした30年前とは違い、令和はお祝いムード一色でみんなが皇室行事に注目しました。あと、消費税増税によりキャッシュレス時代が本格的に到来しました。

また、自然災害も相変わらず多く、日本各地で多大な被害を受けました。そんな中、一番印象に残っているのがラグビーW杯だったではないでしょうか。

あの盛り上がりは2002年の日韓サッカーW杯に匹敵する程でした。

ラグビーW杯が終了して2ヶ月以上経過しても、いまだに選手はテレビ番組に引っ張りだこです。やっぱりスポーツは感動と興奮をもたらしてくれます。

こう振り返れば2019年はある意味、激動だったかもしれません。そしてこれからやってくる2回目の東京五輪。国立競技場も完成し、これから日に日に気分が高揚していくことでしょう。

日本人の大いなる活躍に願いを込め、ハッピー・ニュー・イヤー！

広報部長 田中弘幸

